

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームあざみの家

ユニット名 一階・二階(2ユニット共通)

自己評価実施年月日 平成 19 年 6 月 1 日

記録者氏名 武村 園

記録年月日 平成 19 年 6 月 5 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	誰もが「ちんがり寄ってくれる」「散歩の途中やきね」と立ち寄ってくれる「元気かよ」「久しいね」と来てくれる家である。一人の家族が皆の家族になっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	目的を一つにして、職員皆で入居者に関わっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	グループホームへの問い合わせなどよく見学においてる機会があり、話をしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方は、散歩に出るのでよく知っててくれる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	できるだけ地域に出て行くように、ここだけの生活にならないようにしている。買出し一市、スーパー、その他の専門店（市は、自然な言葉のやり取りがあって、とても気さくな感じを受ける）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	たまたま偶然に散歩をしていた際に、高齢者の方と会ってベンチに座って話をしたことがあり、「周りに誰もいなくて昼間はさびしいもんよ」と。ちょうどボランティアさんが来ることを知らせて、おい出してもらうように声をかけたことだ。気さくに声を掛けていけるようにしている。	○	職員も徐々に声が掛けている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前向きに取り組んでいる	○	評価していただき、改めて新鮮な気持ちで取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者一人ひとりの状況・行った内容（行事など）・職員体制・職員研修・家の評価を取り入れた報告している。役員の方から意見や助言をもらいなるほどと活かしている。	○	自分たちが普段行っていることが、本当に入居者さんにとって、「どうなのか」ということの見極めをする場であり、サービスの見直しになり、間違った方向に行かないようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的には動いてない。小規模多機能ホームの立ち上げに伴い、グループホーム併設であり、今後のサービスの向上・取り組みにおいて何度か出向いていった。	○	サービスの向上に向けてこれからはより動いていくことが必要と思われる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	お一人後見人の手続きをとっている。他は現状ではない。	○	必要に応じて、話はしていく。職員が成年後見人制度の意味を理解する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、話し合いを持って、「してはならない」「誰がしても見過ごさないように」と職員皆に徹底している。	○	虐待の意味を知り、絶対してはいけないことの認識を持つように徹底。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎年契約の際、十分に家族の意見を聞き、皆で話し合う場をつくっている。質問事項については、その場で答えられることは、解決できているが、内容によっては、後日ということもあり報告させてもらっている。かつ契約をおこなっている。	○ 契約は、大事であり、よく家族の話聞き、納得のいくようにし、内容の理解と家族の不安のないようにする。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々・家族会での不満や苦情については、その都度受け入れて、かつ即効解決の方法をとり、対応している。	○ 話を受け止めた上で、できるだけ添えるように職員間で話し合いを持ち、解決していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に郵送している請求書・領収書などと一緒に同封している。(現在のお小遣いの残金・小遣いの使った領収書、個々の入居者の状態を手紙にしているもの)職員の異動・退職については、家族会にて報告している。(年に5回ぐらいの集まりがある中で)又随時面会に来た際に、報告している。	○ 入居者さんあつての家族さんであり、家族さんあつてのグループホームであるので、情報は常に共有していくべきである。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時・家族会での意見交換を通して、家族さんから直接不満・苦情・意見を聞いている。すぐに解決できることは対応している。玄関においてあるノートには何もかかれてない。	○ 他の家族さんの前では言いにくい・直接では言いにくい・ノートは書きにくい等の気持ちがあるのではないかと高知市よりの指導があり、意見箱を設置し、家族にも連絡をした。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会・各階のホーム会で出た意見の中で、自分たちで解決できることはするが、本部長の意見が必要な場合は、意見を持っていく。	○ 皆で作りに上げているグループホームであるので、働きやすい環境の中で働けるようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	できるだけ勤務体制作りをしている。	○ 職員がいないと回らないのでできる限りの勤務体制をしている。いつ何が起こるかかわからないので、前もって職員皆には話している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あざみの家の内部での異動はある。が入居者の不安につながるのを最小限に抑えている。ほとんどない。	○	矢も得ない異動は仕方ないが、入居者のことを考えると難しい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修を組み立て、勉強をし、個々に研修を受けている。且つ法人の各委員会に所属し共に活動している。	○	勤務の関係で研修が受けられないことがないように、調整し、個々に質の向上を目指し、研修が受けられるように調整していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通しての役員会や知り合った仲間との関係作りを大事にし、情報交換をしながらあざみの家のサービスの現状と見極めをしている。知りえた同業者の情報をいれてくれて、検討・参考にしている。	○	同業者がどういう状態であるか、又情報を入れてもらえるように、日ごろから家の情報を伝えていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が楽しく仕事ができるような体制作りをしていくように、又長く継続して働く環境をと、常に話している。	○	継続して原楽ことができるように、職員が居つく職場であることが一番である。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者より職員の個々の情報は耳に入れている。その結果、どのようにしていくかのアドバイスをもらっている。人事考課をしている。	○	研修を通して個々に勉強し、力量を伸ばし、前向きに働けるよう、楽しい職場であるように努める方向でいっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人さんとは、何気なくいろんな話をしていく中で、情報をとりこんでいる。そこから「困っていること」や「不安なこと」「何とかしてもらいたいこと」を受け止めている。	○ 職員は、まずは受け止めること、話を十分に聞くことから関わっている。その中で「どうしてもらいたいのか」を知った上で、かかわりを持っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは、よく本人さんの情報を聞き取り、「今何を」「どうしたいのか」「求めているものは」を話し合っ、それでは「どうしていいか」という方向にもっていつている。	○ 家族とは、よく話を聞くことから始まり、「どうしてもらいたいのか」を知る。なかなか最初からいろんな情報はもらえないだろうが、自分たちの気持ちをわかってもらいながら、気持ちをほぐしつつ、たくさんの情報を共有していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を見極めたうえで、本人と家族の必要としていることも含めて見極めて、行っている。	○ 家族の意向を聞いたうえで、現実の問題として「どうなのか」を一緒になって見極めたうえで対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人さんがまずは第一で安心できるようにしている。家族にも納得してもらい、且つ本人さんにも合わせてわかってもらった上で、家族の協力の中で行っている。	○ 家族と相談しながら、本人さんにとって安心してサービスが受けれるように、本人さんの状態を見ながら、徐々に開始し、いろんな工夫をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人さんの状態を把握しており、一緒に笑ったり、怒ったり、涙流したり、教えてもらったり一緒に感動したりいい関係が保たれている。	○ 開設して3年が丸み、入居者の状態も少し年齢を重ね、「わかること」「わからないこと」が当初から比べると変化がある。しかし変わらないことは、共に感動したり、悲しんだりを共有できる関係が保っていること。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族と職員が大きな円を書けるような気持ちで皆で支えている。変わったことがあったり、うれしいことやすべてにおいて情報の共有を家族と共有している。	○	家族さんとも開設以来からのお付き合いで、本人さんを交えてここまでやってきた。情報を共に共有することで大きな声で笑ったり、「どうしたらえいろうか」と悩んだり、と一緒に取り組んできた。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族さんは、「本人さんから離れて新鮮に見ることが出来て、感情的になることなく、関わることができるのでよかった。」と言われる。どの家族さんにおいても良い関係が築けている。又家の状況を随時報告することで、家族さんも本人さんの現実を理解している。	○	職員一同は、いつも本人と家族との橋渡しであり、いつでもいい関係であってほしいと思っているし、できるだけ家に会いに来てもらいたいと思っている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦を大事にしなが、関係維持に努めている。ふるさと訪問をすることで、家族さんに協力を求め今までの関係の方とのつながりを大事に継続している。現実に親戚・友達・勤めていたところの方・教え子が会いにきたり、手紙・電話がかかってきたりしている。	○	家族さんの協力がないと、本人さんの詳しいことは、わからないし、どうすることもできないので、情報を得て、連絡してもらい会えるように、話ができるように、郵便ができるように何とかつながりがストップにならないようにしていきたい。そのひとつに、絵手紙やはがきづくりを通して作成し、手紙を出すようにしている。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係は、波があり、いいときもあれば、感情的になる事もある。しかし、状況の把握をして、関わりを調整している。入居者同士でなだめあったり、言い聞かせしたり、皆で一つことを言い合ったりしている。	○	とても波があり、職員の力量も関係してくるが、いい関係が保てるようにしたい気持ちで、何気なく動いて状況をつくっている。でも入居者さんたちの中で、とても和やかな雰囲気も保たれている時もあり、大事にしていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現実サービスを終了した本人・家族さんにも今も変わりなく声をかけさせてもらっている。又家にも寄ってくれている。	○	何だかの形でこれからも連絡を取って生きたいし、家からも発信をしていくべきだと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と本人とのカンファレンスや個々との話の中から気持ちを理解していく。	○ 本人がどのように思っているのかが一番大事であり何気ない普段の会話からの気持ちを探って、求めていることをしっかり把握する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、これまでの情報を、ある程度得ているが、詳しくは、家族さんや本人さんとも信頼関係もとれてきてから、色んな話が聞ける。その時にえた情報は、職員皆で共有化する。	○ 職員の入れ替えがあった時に、入居者の理解ができる様に、個人情報を取りまとめた物を見てもらい良かった上で、関わりをして行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の一日がどうであるか、職員がわかった上で関わる。又その日によって気持ちが違うので、現実を見極めたうえでの対応が大事である。職員同士の連携をとって行く。	○ 現実の把握をし、皆で共有していき、個々に関わらないといけない部分は、しっかりと対応する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プランの見直しをしながら、3ヶ月に一回・随時の話し合いをもって立案をしている。その際、家族や本人の意見を取り入れ、現状をふまえたプランを作成している。	○ 皆の意見を出し合って、本人にとっていいプランを作成していく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランが対応できない時は、現状を家族にも相談した上で、本人・家族と一緒に話し合いを持ち、現状にあったプランを作成する。	○ 現実を正しく見極めたうえで、家族にも現状を理解してもらい皆で今何が必要とされているのかをふまえて話し合いをしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の日々の様子やサービスの状況・気づきを随時記録している。その中で職員同士で現状の共有をしながら、プランの見直しをしている。	○	プランは、日々の生活そのものであり、職員の気づきがあり、サービスを提供していることがどんな状況であるか正しく評価し、プランの見直しにつなげる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の状況を見極めたうえで「もっとこの部分を重視していかんといかん」と職員の気づきの中で発見し、関わっている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事を通して、入居者さんのふるさとのボランティアに来てもらったり、地域の方や家族と共に災害についての勉強会に参加したり、炊き出しをして、家族をひっくるめて本人を、もりたてている。	○	入居者さんが喜ぶ家族の参加を求めて、一緒に楽しむことができるようにする。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域との出会いの一つとして、ふれあいの必要性において、デイホーム訪問を継続できるように、電話での問い合わせをしている。	○	近所で職員さんに会っては、「今回はきますか」など気さくに声を掛けてくれる。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>家族にどういう状況であるかの報告をした上で、病院受診をしている。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>入居者の現状の変化があり、専門医への受診をすすめられるようであれば、家族にも協力してもらい、受診をして行く。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>週一回の来所・随時連絡を取りながらちょっとしたことでも変化がある事は連絡を取りながら、健康管理をして行く。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>現状は、入院はいいないが、今後も今までと同様病院職員・家族・本人との状況を、できるだけ出向いて様子を見ながら情報交換をしていき、気持ちの上で入院生活が穏やかに過ごせ、退院に向けての気持ちを持ってもらえるように支えていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>こまかい・具体的な関わりについて、職員皆が徹底して行く。「家族も今すぐどうのこうのでもなく、あまり考えた事がない」と言われるが、「考えていかんと」と話し合いの中ででている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家族は、今の現状から見極める事ができないが、事業所に求める気持ちは、大きい。どのように関わっていくかの細かい取り決めを職員皆に徹底して行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今の所住まいを移りかえることは、予定されていない。もし今後こういう状態があれば、出来るだけの協力は行う。	○	出来るだけの協力をし、本人さんに無理のない状態をつくる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一番大事に思って個々に対応している。個人情報の共有をしていると共に、触れてはいけない事は、禁句としている。	○	職員皆がわかって対応で来るようにする。特に職員の入れ換えの時は、伝達が抜けないように、まずは、本人さんを知ってもらい個人情報の理解から入ってもらう。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「わからない事」も「わかること」も話をした上で、本人さんに決定してもらっている。且つ声を足していっている。初めから「わからないから」とあきらめずに、個々にあった話をしていく。	○	個々によっても「わかる」ことが違うので、状態を見ながら、会話をしていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々によって状態が違うので、もちろん本人さんを中心に一日が流れている。年齢と共に「動きたくない」「めんどくさい」が一緒についてくるので、状態を見極めながら、声を掛けていっている。「どうする」と聞いて来ることがある。「～しましょうか」と言うと「「そうやね」「いや後で」と自分をしっかり訴えている。	○	「今どうしたいか」を大事にしていく。(本人の訴えを)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族さんにも協力をしてもらいながら、行きつけの美容院に連れて行ったもらっている方もいる。しかし、ほとんどの方があざみの里に理美容を利用してもらえるように、家族より依頼されている。	○	家族にしては、金数・時間などをひっくるめた上でお願いしていると思われる。家族の協力が無いと出来ないのでは、状態をわかってもらった上で、協力を求めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	「できること」「できないこと」を見極めて
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	個々にあわせて、許せる限り楽しんでもらえるようにしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	時間で対応していても、その間をとって失禁することがあるので、状況にあわさないといけない。(特に食べた後)トイレであわてさせないで、すわり疲れのないように、ゆっくりとした状態で座ってもらい、声を常に掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	個々によって、拒否があったりするので、何とか入ってもらえるように、あの手で声を掛けている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	その日によって、全く状況が違うので、様子を見ながら対応して行く。個々によって年齢や状態が異なるので、皆が一緒に行動は、取れないし、取る事もない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	毎日やることで、活性していくことである。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	出来るだけ自分でお金を支払いができる様にしていく。触らなかつたら忘れてしまうので、チャンスをつくる。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	ちょっと外の風をうけたり、目先が変わるだけで気分が変わる。表情も落ち着いてくる。出来るだけ外に向けてを対応する。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	閉じこもりなく、季節を感じながら外出の機会を作って生きたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	あざみの家にたくさんの方が出入りすることで、入居者さんも活性化する。家からも手紙を出して、呼んで、来てもらって、掛けてもらってを繰り返すことから、ひろがっていつている。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	○	家族がさんもよく来てくれている。家族会にも話だけでなく、一緒にご飯を作って、食べることを取り入れてきてもらったりしている。
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	「してはいけない」ことの徹底と、職員がどのように関わっていくかの話し合いをしている。(ホーム会)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	鍵を閉める必要はないです。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	一人で居る事も大事であるが、かえって不安になる事もあり、声をかけられることで安心する。表情も含め状態を確認しながら、対応して行く。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	個々によって「わからない」状態になって、管理できない、放置が見られ危険が見られる状態になれば、家族とも相談した上で、対応して行く。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	個々の状態の変化があり、職員同士の伝達を取りながらその場の対応をしていき、検討につなげていく。(なぜ・どうして・防ぐ事ができなかったか)の分析をしていく。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	マニュアルに添って対応できるように、又訪看との連携がいき、すぐさまの対応をしていく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	繰り返し避難訓練に参加してもらい、万が一の災害に備える。又非常ベルが鳴ったら何かあるという気持ちになってもらうよう、日頃から話をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族には、カンファレンスを通して、又随時・来所時に話をし、ここでの生活の様子を話している。	○	早めにカンファレンスについて家族に連絡し、できるだけ参加してもらおうようにして行く。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックをしている(朝・夕方)これをしながら、日々の顔色、表情、動き、体感などを気にし、その都度状態をみている。状態に変化があると見られたら、すぐさま訪問看護・ホーム長に連絡し次の指示をうけている。	○	普段の状態が把握できているので、ちょっとした変化に気づく職員であってほしい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬管理ノートを通して、毎回職員がチェックし、どういう薬を飲んでいるかについては、病院より薬をもらってきた際に、確認している。	○	薬が変更になって、減ったり増えたときの職員同士の確認をする。(なぜか) どういう薬か。ということ。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳ゼリー・牛乳をだしている。口当たりがよく全員が喜んで食べている。又水分をこまめに飲んでもらっていると共に、毎朝の体操の励行をしている。	○	日中の過ごし方を見直して、腸の動きが良くなるように、体操の工夫をする。水分の取りかたの工夫をする。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々にあわせて口腔ケアをおこなっている。なかなか拒否があるので、気分を変えながら関わっている。	○	個々にあった声かけをして口腔ケアを継続していけるように。あの手で関わっている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックをし、どのくらい食べているか・飲んでいるかを確認しながら、個々に補給をしている。無理のないように、頻回に少しでも飲んでもらえるように、好きな物を選んでもらいとか方法を変えながら関わっている。	○	食べれない・飲めない状態の原因を追求した上で関わりをしていき、不足にならないように、こまめに飲んでもらい、飲めなければツルーンと口に入りやすいものを提供し、工夫して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルにそって対応している。毎朝の拭き掃除からスタートしている。感染についての研修にもいき、職員から動き始めている。	○	感染の恐さを勉強して、起こさないように皆が気をつけていく。職員も健康管理に気をつける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤帯には、必ずまな板・ふきん・台拭き・包丁のハイター付けをしている。食材の管理においては、水分が飛ばないようにぬれた新聞でくるんだり、ビニール袋でむせこまないようにしている。又冷蔵庫内の賞味期限切れ、片付けをしている。	○	必ず手洗いを励行し、食に関わる。又作りながら片付けながらの両者で作って行く様にする。作り上手・片付け上手をしながら行う。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、開放的であり、鍵はしていない。大きな看板を貼り付けており、あざみの家とわかるようにしている。家族も自由に出入りがあり、「こんばんは」「こんにちは」と気さくにきてもらっている。	○	「大きな看板ができてよかった」と言われる。何の気兼ねもなくこれとこであるように、あざみの家とわかるようにして行くことで、家族さん以外の方にも知ってもらおう。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所を気にしている。特に台所は、明るく、食の場であり、包丁の音、においを直に感じてもらえる。足元が明るくて安心できるように、心掛けている。又気持ちの上で落ち着く事が出来る音を生している。（なつかしメロディーなど）	○	心地よく過ごせるように、安心して移動でき、美味しく食べる事ができる照明や気持ちの上で落ち着く音（クラシックや歌謡曲・なつかしメロディー）を生している。又DVDから流れる音を聞きながら、画面をみて歌えるようなものを購入の予定している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの入居者が思い思いの場所について、過ごしている。玄関先椅子・和室上がり口・居間のソファ・ダイニングなど皆がそれぞれに好きなところに行って、そこに気の合う方が一緒になって、話をする状態である。	○	好きなところに行って、好きな事ができている環境は、良いと思う。又そこに一人ひとり寄ってきて、話がはずみ、時には感情が高ぶって、大きな声を出したりする場面も見られている。自分から好きな場所にいけているので、そういうときを大事にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力してもらいながら、本人が使っていたものや大事にしていた物をもってきてもらい、落ち着く環境を心がけている。	○	家族が中心に本人さんと一緒に居室の片づけをしたり、落ち着いた環境づくりの協力をもとめている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、状況を見ながら、こまめに換気をしている。又季節に応じて、必要に応じてエアコンをつけている。温度差がないように気を配っている。出来るだけ自然の風を取り入れるようにしている。朝の掃除の際は、必ず窓を開けて行っている。	○	出来るだけ自然の風を取り入れているが、どうしての場合は、エアコンに頼って、できるだけ外との温度差に気をつけていく。又一日数回は、換気をして行く。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の上がり、まちに段差がある。手摺りが居間やトイレや廊下に付けられている。また浴室にも手摺りが付けられている。食事の準備は、立つてする事ができないため、食卓にて行っている。又できる方には、職員見守りで洗ったり、炒めたり、ゆでたりしてもらっている。	○	個々によって、身体機能は異なるので、入居者さんの状態を正しく見極めた上で、一緒に付き添い・見守りができる様に職員皆で徹底する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのことを、ホーム会で話し合い本人が「わかること」「わからないこと」をちゃんと見極めて、「わからないこと」を職員がどのように声を掛けて関わっていくかを話し合っている。「わかること」は、やってもらっている。「わからないこと」も、わかってもらえる様にさりげなく、繰り返し関わっている。	○	関わり方一つで、声の掛けようで全く違ってくるので、皆でどのように関わっていったらよいか話し合っている。又実践して「いかんな」という関わりなどは、しないようにしている。職員同士の連携をとっている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには、椅子を置いてあり自由に座る事ができ、又ベランダにも自由に出ることができる。緑を絶やさず、花も四季を通して植え替えて目の保養をする事ができる。風に吹かれながら歌を歌ったり、お茶を飲んだりしている。散歩の帰り道、座って休んだりしている。	○	石ころが大きい為整備して皆が、歩きやすく、行き来がしやすくしていく。ドラムにパラソルを差し込んで日よけにして、皆で風に吹かれて、ゆっくりできる様にしていく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

一日の大きなながれとして、あざみの家は、開設以来毎朝恒例の職員独自の朝市の体操をしている。頭から足までの体全体の動きを取り入れ、且つ頭の体操も取り入れながら、面白く、楽しくやっている。個々に合わせた距離を午前・午後を問わずに散歩している。又、生活リハしながら、立位をとったり、拭き掃除をしたり、手先を使うようにランチョンマットを広げて敷いたり、昼食・夕食の準備をしながら、包丁さば・皮はぎ・盛り付け・あわせる・配る・ねぎりなどを声を掛けながらやっていただいている。洗濯物を干したり、洗濯物の名前を確認し、自分のものと他の方との区別をして、たたんで片付けることができる。入浴は、毎日・一日おき・二日おきに希望に応じてはいつているが、最低三日に一回は入ってもらっている。起床・就寝は、本人の気持ちで動くまで様子を見る。家族さんは、毎日・一週間に一回・10日に一回など個々に顔を見せに来ている。とても喜んでいる。特に家族会の恒例になった家族参加の花見・食事会・敬老会・夏祭り・家族会にも参加してくれる。又カンファレンスを通して家での状況を理解してもらっている。とても喜んだのだが、地元の芸能ボランティアに来てもらい、郷土芸能を披露してくれて、大変な感動振りだった。今後も継続していく。入居者さんは、個々に自分のペースで、食後の昼寝をしたり、一人でポツーンと座ってみたり、ソファーでうたたねをしたり、歌を歌ったり、大きな声で笑ったり、怒ったりと、気ままに暮らしている。季節のドライブや買出し・地域の方が集まる西町公民館での絵手紙教室・地域の方が先生になって一緒にする絵手紙・はがきづくり、デイホームきららへの訪問など皆で楽しんでいる。